

5 障害者が自立して暮らせるまちをつくる

平成19年3月に策定された「改定練馬区障害者計画・第一期障害福祉計画」では、「障害のある方の一人ひとりの人権を尊重し、どんなに障害が重くとも、地域のなかで自分らしい自立した生活ができる社会をめざす」ことを目標としている。

そのため区では、障害者が地域で安心して暮らすための仕組みづくりを推進している。

(1) 地域で障害者を支える基盤をつくる

●障害者計画・障害福祉計画の推進

障害者に関する基本的な計画の「障害者計画（障害者基本法に規定）」と障害福祉サービスの提供体制確保のための「障害福祉計画（障害者自立支援法に規定）」を策定し、障害福祉の着実な推進を図っている。

平成21年度に、「第一期障害福祉計画」の必要な見直しを行い、関係団体・事業者からのヒアリング、素案説明会・パブリックコメント等により区民意見を踏まえながら、「第二期障害福祉計画（21～23年度）」を策定した。

「第二期障害福祉計画」では、「ケアマネジメントによる相談支援の充実」など、重点的に取り組む課題を設定し、さらなる施策の充実に取り組むこととした。

●相談支援の充実

1 総合福祉事務所

総合福祉事務所では、身体障害については障害者支援係が、知的障害については知的障害者担当係が、障害者やその家族からの相談に応じ、助言・指導を行っている。

障害者支援係の相談・指導件数

平成21年度

種別	総合福祉事務所			
	練馬	光が丘	石神井	大泉
	件	件	件	件
身体障害者手帳交付	1,715	2,075	1,978	1,458
自立支援医療(更生医療)	630	565	575	340
補装具交付	933	1,013	773	862
職業	5	0	18	15
施設入所および紹介	419	363	360	400
医療保健	983	1,235	982	754
在宅・生活	4,465	5,359	5,269	6,902
無料乗車券	1,203	1,382	757	610
その他	790	1,153	1,176	1,432
小計	11,143	13,145	11,888	12,773
合計	48,949			

知的障害者担当係の相談・指導件数

平成21年度

種別	総合福祉事務所			
	練馬	光が丘	石神井	大泉
	人	人	人	人
施設入所	412	366	203	487
職親(しよくおや)委託	0	2	0	0
職業	64	52	53	10
医療保健	28	83	13	12
生活	33	23	54	14
教育	9	17	0	0
その他	1,261	1,766	1,902	641
小計	1,807	2,309	2,225	1,164
合計	7,505			

2 障害者地域生活支援センター

福祉サービスの利用援助、社会生活力を高めるための支援など総合的な相談支援事業を通して、地域で自立した日常生活や社会生活ができるように、障害者やその家族を支援している。

主たる利用対象者が精神障害者である豊玉障害者地域生活支援センター（きらら）と石神井障害者地域生活支援センター（ういんぐ）がある。また、主たる利用対象者が身体・知的障害者である光が丘障害者地域生活支援センター（すてっぷ）で電話や来所による相談、地域交流事業等を行っている。

平成22年5月には主たる利用対象者が身体・知的障害者である大泉障害者地域生活支援センター（さくら）を開設した。

障害者地域生活支援センターの相談件数

平成21年度

種別	サービス利用	障害状況の悩み	就労			その他
			就	労	社会生活	
施設	件	件	件	件	件	件
豊玉	641	4,906	563	1,780	1,111	
光が丘	115	593	28	365	458	
石神井	889	3,156	331	1,222	311	
小計	1,645	8,655	922	3,367	1,880	
合計	16,469					

●精神保健福祉

変化の激しい現代社会は、一面、ストレス社会でもある。そういう中で、心の健康を維持し、向上させていくためには個人的な努力に加え、社会全体の取組が必要である。

各保健相談所では、保健師による家庭訪問、所内面接相談、電話相談と医師による精神保健相談を行っている。

近年は、思春期の心の問題、酒害、虐待、ひきこもり、認知症（痴ほう）に関することなどの専門的な相談が増え、相談内容も複雑、多様化している。平成21年度は延べ37,632件の相談を受けた。

その他、社会復帰に関する相談・支援は延べ4,792人であった。就労に関する支援として民間の通所施設や社会適応訓練事業等、都や医療機関等と連携を図りながら実施している。

医療費については、東京都が通院医療費、小児精神病医療費の公費負担を実施しており、保健所等でその申請を受け付けている。このうち通院医療費については、18年4月1日から、障害者自立支援法の施行に伴い、自立支援医療制度（精神通院）となった。21年度の医療受給者証交付件数は8,336件、小児精神病の医療券交付件数は9件であった。

また、7年10月から精神障害者の各種優遇措置等、福祉の向上のために、長期にわたり、日常生活または社

会生活への制約がある方を対象に「精神障害者保健福祉手帳」が交付されるようになった。21年度の交付件数は1,852件であった。

●手帳の交付

身体障害者福祉法および東京都愛の手帳交付要綱に基づいて、東京都が身体障害者手帳、愛の手帳の交付を行っており、区は進達事務等を行っている。

交付を受けた障害者は、都、区の制度の利用はもちろん、交通機関の運賃割引や税の軽減措置など、各種の福祉制度が利用できる。

身体障害者手帳所持者数

各年3月31日現在

区分 年次	身 体 障 害 者					合 計
	視覚障害	聴覚機能 平衡障害	音声言語 障 害	内部障害	肢体不自由	
	人	人	人	人	人	人
平成18	1,330(14)	1,486(99)	207(1)	4,769(82)	9,135(263)	16,927(459)
19	1,350(20)	1,514(106)	219(2)	5,065(90)	9,231(263)	17,379(481)
20	1,382(19)	1,553(104)	236(3)	5,233(91)	9,380(252)	17,784(469)
21	1,410(20)	1,561(102)	238(4)	5,449(87)	9,407(242)	18,065(455)
22	1,434(20)	1,636(100)	240(3)	5,710(81)	9,652(243)	18,672(447)

注：()内の人数は18歳未満を再掲。

知的障害者（児）愛の手帳所持者数

各年3月31日現在

区分 年次	知 的 障 害 者				合 計
	最 重 度	重 度	中 度	軽 度	
	人	人	人	人	人
平成18	126(28)	899(221)	945(262)	1,200(352)	3,170(863)
19	126(31)	942(231)	977(270)	1,281(383)	3,326(915)
20	126(22)	970(244)	979(261)	1,374(412)	3,449(939)
21	129(20)	999(249)	997(262)	1,448(443)	3,573(974)
22	136(19)	1,021(245)	986(233)	1,512(453)	3,655(950)

注：()内の人数は18歳未満を再掲。

知的障害者（児）処遇状況

平成22年3月31日現在

総合 福祉 事務所	種別				計
	障害児施 設入所	障害者施 設入所	障害者施 設通所	そ の 他 (居宅等)	
	人	人	人	人	人
練馬	16	67	149	460	692
光が丘	17	90	231	771	1,109
石神井	25	89	246	670	1,030
大泉	17	77	183	547	824
合 計	75	323	809	2,448	3,655

●福祉手当と年金、医療費助成

障害の種類、程度により、区をはじめ国、都は各種福祉手当や年金、医療費の助成を行っている。

1 練馬区心身障害者福祉手当

身体障害者手帳1、2級、愛の手帳1～3度、脳性まひ、進行性筋萎縮症および特殊疾病（82疾病）の方に月額15,500円を、身体障害者手帳3級、愛の手帳4度の方に月額10,000円をそれぞれ年3回に分けて支給した。

ただし、①65歳以上の新規 ②本人の所得（20歳未満は保護者の所得）が制限基準額を超える方 ③児童育成手当（障害手当）受給者 ④施設入所者等は該当しない。

平成22年3月31日現在の受給者は10,047人である。

2 東京都重度心身障害者手当

東京都心身障害者福祉センターの判定で認定された重度の心身障害者に、月額60,000円を毎月支給している。

ただし、施設入所者および3か月以上入院している方は該当しない。また、所得制限、年齢制限がある。22年3月31日現在の受給者は539人である。

3 国の特別障害者手当等

昭和61年4月の障害基礎年金制度の発足により、従来の福祉手当は、次の3手当に改められた。①特別障害者手当（20歳以上対象） ②障害児福祉手当（20歳未満対象） ③経過的福祉手当（昭和61年3月31日の時点で、従来の福祉手当を受給していた20歳以上の方で、特別障害者手当および障害基礎年金のいずれも受けられない方が対象）。

これらの手当は、身体または精神に著しく重度の障害があるため、日常生活において常時特別の介護を必要とする方に対して支給するものである。ただし、一定以上の所得のある方、施設入所者、3か月以上の病院入院者（特別障害者手当の場合）および障害を理由とする公的年金等受給者（障害児福祉手当および経過的福祉手当の場合）は、該当しない。

平成21年度の手当額は、特別障害者手当は月額26,440円、障害児福祉手当および経過的福祉手当は月額14,380円を年4回に分けて支給した。22年3月31日現在の受給者は、特別障害者手当657人、障害児福祉手当207人、経過的福祉手当32人である。

4 心身障害者扶養共済

障害者を扶養する保護者が死亡したとき、残された障害者の生活の安定を図ることを目的とした東京都心身障害者扶養年金制度は、19年3月1日をもって廃止となった。東京都は、これに代わる制度として20年4月1日から全国共通の心身障害者扶養共済制度に加わった。22年3月31日現在の加入者は25人である。

5 心身障害者医療費助成

身体障害者手帳1、2級（内部障害は3級まで）、愛の手帳1、2度の方が各種健康保険で受診した場合、保険

診療の自己負担分（ただし、高額療養費として支給される額を除く）の一部を助成している。ただし、後期高齢者医療制度適用者については、非課税の方のみ一部負担金分の助成を行っている。22年3月31日現在の対象者は5,459人である。

●心身障害者福祉集会所

障害者とその家族および団体を対象に、自主的活動や交流の場として、光が丘区民センター内に集会所を設置している。集会室（洋室、和室）などがあり、平成21年度の利用状況は、団体利用が、延べ2,991団体、27,344人であった。

(2) 障害者が必要とするサービスを提供する

障害者自立支援法では、身体障害・知的障害・精神障害などの障害種別に関わりなく、支援の必要度に合わせたサービスを提供することとしている。

1 対象者

身体障害者手帳、愛の手帳所持者または知的障害があると判定された方、精神保健福祉手帳所持者または精神障害があると判定された方。

2 障害程度区分認定

障害者自立支援法では、支給決定の仕組みの透明化、明確化のため、障害程度区分認定制度を取り入れており、障害福祉サービス（介護給付）を利用するには、申請をし障害程度区分認定を受ける必要がある。障害者の心身の状況についての106項目のアセスメントを基に一次判定を行い、障害保健福祉の学識経験を有する委員で構成される審査会により、一次判定結果を原案として、医師意見書等の内容を加味した上で、二次判定を行う。これにより障害程度区分1～6が認定され、サービス利用意向の聴取、勘案事項の調査を経て、サービス内容と支給量を決定する。

障害程度区分の判定状況

平成21年度

	判定区分							計
	非該当	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	
身体障害者	0	24	45	29	16	20	38	172
知的障害者	0	7	66	46	93	77	56	345
精神障害者	0	44	108	47	0	0	0	199
計	0	75	219	122	109	97	94	716

●障害者自立支援法による障害福祉サービス等

障害者自立支援法による給付は、介護給付、訓練等給付、自立支援医療、補装具費支給の自立支援給付と地域生活支援事業で構成されている。利用者負担は、定率負担（原則一割負担）である。

1 自立支援給付

(1) 給付状況

平成22年3月31日現在

区分	内容	延べ人数
介護給付	居宅介護(身体・家事)	7,648人
	重度訪問介護	1,166人
	行動援護	0人
	重度障害者等包括支援	0人
	児童デイサービス	1,832人
	短期入所	1,329人
	療養介護	51人
	生活介護	5,051人
	施設入所支援	1,438人
	共同生活介護	1,151人
訓練等給付	自立訓練	221人
	就労移行支援	1,139人
	就労継続支援	8,303人
	共同生活援助	1,336人
旧法による給付	旧法施設支援	5,999人

(2) 自立支援医療

精神保健福祉法による精神通院医療、身体障害者福祉法による更生医療、児童福祉法による育成医療が自立支援医療として一元化され、精神通院、育成医療部分は東京都、更生医療部分は区が行っている。21年度の更生医療の給付状況は、延べ3,660件であった。

(3) 補装具

障害の種別、程度に応じて、車いす、義足、点字器、補聴器などの費用を支給している。21年度の支給状況は支給795件、修理624件、計1,419件であった。

2 地域生活支援事業

障害者(児)が地域で自立した生活ができるように、能力や適性に応じた支援を行う。主な事業は以下のとおり。

(1) コミュニケーション支援事業

意思疎通に支障のある障害者を支援するため、手話通訳派遣や要約筆記者派遣を行っている。21年度の派遣回数は、手話通訳2,436件、要約筆記は274件であった。

なお、東京手話通訳等派遣センターに事業の一部を委託している。

(2) 日常生活用具および住宅設備改善費の給付

重度障害者の在宅生活を援助するための制度で、特殊寝台、ポータブルレコーダー等の日常生活用具や浴室、便所等の改善費用を給付している。また、住宅設備改善費の給付については、65歳以上の方は屋内移動設備・階段昇降機のみが対象になる。40～64歳で特定疾病の方は介護保険の住宅改修費の給付を受け、不足する分が対象となる。21年度の日常生活用具の給付は8,920件、住宅設備改善費給付は48件であった。

(3) 移動支援事業

地域での自立生活や社会参加を促すために、屋外での移動が困難な障害者に対し、外出のためのガイドヘルプ等の支援を行っている。21年度は延べ8,386人が利用した。

(4) 地域活動支援センター事業

障害者の創作活動や生産活動の機会を提供し、社会との交流の促進を図っている。Ⅰ型が3か所Ⅱ型が1か所ある。

(5) 訪問入浴サービス事業

重度身体障害者で家族等の介護だけでは入浴困難な方を対象として、巡回入浴車による訪問入浴を行った(介護保険対象者を除く)。21年度の利用者は延べ896人であった。

(6) 日中一時支援事業

障害者の日中における活動の場を確保し、見守り、社会に適応するための日常的な訓練を行うとともに、家族等の就労支援、一時的な休息の確保を行っている。21年度の利用者は延べ854人であった。

●障害者自立支援法以外の障害福祉サービス

1 緊急一時保護

(1) 家庭委託

心身障害者(児)の保護者が、病気や家庭の都合などで、緊急に介護ができなくなった場合、一時的に他の家庭に委託して介護を行うもので、月5回まで依頼できる。

平成21年度は延べ3,628回の利用があった。

(2) 施設保護

心身障害者(児)の保護者が、病気や事故、冠婚葬祭などで家庭での介護ができなくなった場合や休養する場合、施設(大泉つつじ荘)で保護している。21年度は、延べ1,428日の利用があった。

2 脳性まひ者介護人の派遣

20歳以上の身体障害者手帳1級の重度脳性まひ者に、障害者本人が推薦した介護人を派遣し、介護人には介護料を支給する。なお、障害者自立支援法における障害福祉サービス等の受給者を除く。

22年3月31日現在の対象者は106人で、21年度は延べ18,887回派遣した。

3 福祉電話の設置・料金助成

重度の身体障害のため外出困難な世帯に電話機を設置貸与し、基本料金および付加使用料を区で負担している。

また、同条件の方で電話機を自己所有している場合にも同様の助成を行っている。

平成21年度末での助成台数は59台である。

4 紙おむつの支給

在宅の3歳以上65歳未満で身体障害者手帳1、2級・愛の手帳1、2度の方、ただし、本人の所得(20歳未満は保護者の所得)が基準額以下の方に紙おむつ等を支給

している。21年度は延べ3,670人に支給した。

5 出張調髪

東京都重度心身障害者手当を受給している方で外出が困難な方、もしくは同等の障害を有する方を対象に、区内理容組合、美容組合の協力を得て、障害者が在宅で出張調髪を受けられる利用券を交付している。21年度は6枚を限度として交付し、利用者は延べ407人であった。

なお、一回あたり500円の利用者負担金がある。

6 福祉タクシー券の交付

外出困難な心身障害者の社会生活の利便を図るため、1か月につき500円券6枚、100円券5枚を交付している。

21年度の交付人数は、5,462人であった。なお、年齢、所得による対象制限がある。

7 リフト付きタクシーの運行

身体障害者手帳または愛の手帳所持者で外出時に車いす等を利用する方を対象として利用料の一部を区が負担している。21年度の運行回数は11,182回である。

8 自動車燃料費助成

外出困難な心身障害者の社会生活の利便を図るため、1か月2,500円の燃料費を助成している。21年度は1,467人に助成した。なお、年齢、所得による対象制限がある。

9 チェアキャブ運行事業の助成

区内に在住し、常時車いすを使用する障害者、高齢者の外出および社会参加を促進するため、リフト付車両を運行する。(社会福祉協議会運営)

21年度は延べ654人の利用があった。

(3) 障害者の生活の場づくりを支援する

●福祉園

区立7福祉園は、知的障害者通所更生施設として役割を果たしてきたが、平成21年4月に障害者自立支援法に基づき生活介護事業へ移行した。

福祉園では、日中活動の場として、日常生活に必要な活動、作業活動、レクリエーション、サークル活動、宿泊訓練を通じて、心身の発達や社会生活能力を助長するための支援を行っている。

22年3月31日現在、大泉町50人、氷川台51人、関町33人、光が丘34人、石神井町27人、大泉学園町60人、貫井40人が通園している。

また、医療的ケアを必要とする重症心身障害児(者)の日中活動の場を確保するため、氷川台福祉園と大泉学園町福祉園において受け入れを行っている。定員は、それぞれ1日あたり5人。

●障害者地域活動支援センター

障害者地域活動支援センター(谷原フレンド)では、パソコン、手芸、美術、織物、エアロビクスなどの創作・文化的な活動と機能訓練のほか、入浴・給食・送

迎サービスなどを提供している。

定員は1日あたり15人、1人の最大利用日数は週3日。

●知的障害者生活寮

区立知的障害者生活寮(しらゆり荘および大泉つつじ荘)では、15歳以上の知的障害者で就労または授産施設等に通所している方に生活の場を提供し、日常生活に必要な援護・指導を行っている。定員はしらゆり荘が6人、大泉つつじ荘が8人である。

●障害者グループホーム

障害のある方の自立した生活を推進するため、区は、障害者の居住の場として、世話人の家庭的なケアにより共同生活を行うグループホームの整備を進めている。平成21年度末現在、定員は189人である。

(4) 障害者の就労・社会参加を促進する

職業を通じた社会参加、自立を図るために、障害者の就労を進める必要がある。そのため、区では、練馬区障害者就労促進協会の機能強化を図るとともに、就労支援団体やハローワーク、特別支援学校等の関係機関と連携し、就労支援に関する情報を共有化して、就労促進をめざしている。

また、既存の作業所等が障害者自立支援法に基づいた就労移行支援事業や就労継続支援事業へ移行するための支援を行っている。

●就労移行支援事業所

区では、一定期間就労に向けた訓練を経て就職を目指す場として、2か所の就労移行支援事業所を設置している。

自立支援法に基づいた就労移行支援事業所に、平成19年4月に貫井福祉工房(就労サポートねりま)、21年4月にかたくり福祉作業所が移行した。定員は、貫井福祉工房が20人、かたくり福祉作業所が6人である。

21年度の収益は、貫井福祉工房は6,570,880円、かたくり福祉作業所は830,766円である。

就労の状況は、貫井福祉工房が5人、かたくり福祉作業所は0人である。

●就労継続支援B型事業所

区では、知的あるいは身体障害のある方のために福祉的就労の場として、4か所の福祉作業所を設置している。

障害者自立支援法に基づいた就労継続支援B型事業所に、平成18年10月に白百合福祉作業所、21年4月に大泉福祉作業所、北町福祉作業所、かたくり福祉作業所が移行した。一般企業などでの就労が困難な方や、一定年齢に達している方に働く場を提供している。21年度末現在、白百合38人、大泉68人、北町49人、かたくり61人が利用している。

●練馬区障害者就労促進協会

練馬区障害者就労促進協会は、障害者の就労を促進

するために、平成2年11月に設立された。18年10月の障害者自立支援法の本格施行に伴い、障害者への就労支援の取組強化が今まで以上に求められている。

そのため、協会は、障害者の就労を支援する体制を一層強化し、障害者の就労をコーディネートする役割に焦点を当てた取組により就労者増をめざしている。

21年度には、次の事業を行った。

1 職場定着支援事業

就労後の職場定着を図るため就労支援員を派遣し、21年度の対象者は285人、延べ1,142回になった。

2 就労相談事業

来訪や電話等による、職業相談を行い、21年度は延べ845件の相談があった。

3 就労支援事業

アセスメント、職場開拓、職業準備訓練等を行い、21年度は48人が就職した。

4 障害者就労ネットワーク推進事業

21年度はネットワーク会議を18回、講演会を2回、企業見学会を2回実施した。この他、就労している障害者を対象とした余暇支援として交流会を2回実施した。

5 普及・啓発事業

障害者雇用支援月間での講演会、パネル展、作業所等の施設の自主生産品販売会を行った。また、21年度は就労支援セミナーを4回実施した。

●練馬区障害者雇用協議会

図書館や出張所、公園等の区立施設の清掃業務を活用し、就労支援を行う。(平成17年度発足)

21年度末現在、20人が一般就労に向けた支援を受けている。

作業内容と工賃

平成21年度

[大泉福祉作業所]

内 容	作 業 工 賃
	円
チ ラ シ 折 ・ 封 入 等	1,894,280
紙 器 組 立 等	403,043
自 主 生 産 等	1,074,340
公 園 清 掃 他 8 件	1,062,008
合 計	4,433,671

[北町福祉作業所]

内 容	作 業 工 賃
	円
紙 器 組 立 等	3,070,400
公 園 ・ ア パ ー ト 等 の 清 掃	1,241,400
ポ ス テ ィ ン グ 等 他 1 件	1,078,359
自 主 生 産 等	2,429,669
合 計	7,819,828

[かたくり福祉作業所]

内 容	作 業 工 賃
	円
ダイレクトメール封入他	4,286,140
バーコードシール貼り	753,450
公園・マンション等の清掃	56,809
雑誌付録封入他7件	3,795,393
合 計	8,891,792

[白百合福祉作業所]

内 容	作 業 工 賃
	円
紙 器 組 立	1,119,830
公 園 清 掃	794,065
古 紙 回 収 等	352,916
自 主 生 産 他 8 件	2,224,975
合 計	4,491,786

●喫茶コーナー運営事業

区役所西庁舎10階展望室内の喫茶コーナー「我夢舎楽(がむしゃら)」は、障害者と健常者のふれあいと、障害者の社会参加・生活訓練の場として障害者が自ら運営している。平成21年度の利用者は12,862人であった。

●福祉大会

地域社会で活躍している障害者および障害者福祉の向上に功績のあった方を表彰する大会である。

平成21年度は、地域活躍者4人、援護功労5件の表彰を行った。

●啓発活動等の推進

障害者に対する社会の差別と偏見を取り除き、障害のある方とない方が相互に理解を深めるよう、区報による広報、障害者福祉施設の地域交流事業など啓発活動の強化に努めている。平成21年度は、納涼会や施設公開等の催しを23回実施した。

また、障害者の社会活動を促進するために交通手段や公共施設の改善などのほか、ボランティア活動の促進に努めている。

さらに社会福祉法人練馬区社会福祉協議会ではボランティア・市民活動センターを設置し、ボランティアや市民活動に関する情報提供を行っている。

(5) 障害の早期発見や早期療育、自立訓練の体制を整える

●講習会・教室

ボランティアを育成するため、手話講習会（初、中、上級、通訳養成、原則週1回、年間）を実施している。

また、中途失聴者や難聴者を対象にした手話講習会、視覚障害者等を対象にした点字教室も実施している。

さらに、障害者を対象に初歩のパソコン講習会（年6回程度）を実施している。

●訓練は幼児から

障害者の自立には、一日も早い訓練が必要である。区では、区立心身障害者福祉センター（中村橋福祉ケアセンター）や民間団体などで障害者の訓練を行っている。

●心身障害者福祉センター（中村橋福祉ケアセンター）

センターでは、医師をはじめ専門職員を配置して、相談・指導・訓練・支援を行うとともに、障害者団体等に施設の貸出しを実施している。

また、1歳6か月までのダウン症児等とその親を対象に、相談・療育指導・訓練を行うダウン症児等超早期支援を実施している。

1 相談

心身に障害のある方を対象に、専門医や専門職員が相談に応じている。また成人の聴力障害の相談（週1回）も行っている。

2 指導・訓練・支援

幼児に対しては、基本的な生活習慣を身につける指導、発達を促すための遊びを通じた指導、機能訓練や言語訓練などを集団または個別に行っている。平成22年3月31日現在319人が指導を受けている。

養護学校卒業後等の心身障害者に対しては、自立生活プログラム、創作・趣味的活動、社会体験学習等を通して、社会生活能力の向上を目指した活動支援を行っている。

心身障害者福祉センターの相談・訓練・施設提供 平成21年度

区 分	延べ人数
	人
相 談	3,868
幼 児 訓 練	12,748
成 人 訓 練	1,391
施 設 提 供	32,079
合 計	50,086

●心身障害児（者）通所訓練事業助成事業

民間7団体が行う幼児や児童の集団保育や訓練・指導等の事業について運営費の補助を行っている。平成22年3月31日現在243人が通所している。